

令和4年11月11日

高齢施策担当部高齢者支援課

令和4年度第1回 練馬区地域ケア推進会議

1 会議の目的

高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムを確立するため、地域ケア圏域会議等で把握された課題および社会資源の現状を共有するとともに、区の対策を検討し、政策形成を図る。

資料2別紙 参照

2 地域ケア圏域会議等の実施結果

(1) 圏域課題として出された主な意見

- ① 高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生活できるために、認知症への理解を深め、高齢者を見守り、支える地域のネットワークの構築が必要である。そのために、関係者が地域の身近な問題としてとらえ、情報共有を図り、顔が見える関係作りを継続していくことが大切である。
- ② 新型コロナウイルス感染症による自粛が続いたことで、外に出ることを控えたり、人と関わることが少なくなったため、フレイル状態になっている高齢者が多くいると思われる。ひとり暮らし高齢者等が、地域で孤立しないためにも、見守りや支援の方法を考えていく必要がある。

(2) 各会議の結果概要

資料3のとおり

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部会議の書面開催等の対応を行った。

3 区の実施の方向性

- (1) 認知症を早期に発見し適切な支援につなげるため、練馬区医師会と連携して、令和3年からもの忘れ検診を実施。検診を活用し、地域包括支援センターへの相談や受診勧奨につなげている。

また、認知症への理解を深め、顔が見える関係作りに向けて、認知症の本人・家族の

声や希望を聞く本人ミーティングをとおして、認知症サポーターとともに地域活動を行うチームオレンジ活動を実施している。

今後も、練馬区医師会と連携しながら、認知症の支援の充実に向けて検討を進める。

- (2) 今年度実施する高齢者実態調査において、新たにフレイルに関する項目を追加した。その調査結果に基づき、区の介護予防事業を案内するなど、早期のフレイル予防活動につなげていく。

また、今年度の高齢者基礎調査において、「孤独・孤立」や「見守り ICT サービスの利用意向」の項目を追加し、その調査結果に基づき、コロナ以降、外出する機会が減少している高齢者を地域で孤立させないよう、街かどケアカフェの増設など、高齢者を見守る体制を強化していく。